

# 105-252

## 問題文

医師に提案したそれぞれの薬物のもつ作用の特徴として、適切なのはどれか。2つ選べ。

1. セロトニン5-HT<sub>2A</sub> 受容体遮断作用
2. ヒスタミンH<sub>1</sub> 受容体遮断作用
3. ドパミンD<sub>2</sub> 受容体部分刺激作用
4. アセチルコリンM<sub>1</sub> 受容体遮断作用
5. アドレナリンα<sub>1</sub> 受容体部分刺激作用

---

## 解答

問252 : 3, 4問253 : 1, 3

## 解説

### 問252

問 253 と合わせて解説します。

### 問253

統合失調症治療薬として、ドパミン遮断薬のハロペリドール使用中に、ドパミン遮断による運動機能系の副作用として、錐体外路症状の訴えがあったため、代替薬の相談があったという状況です。

問 252 の選択肢 の薬物について

ブロムペリドール、スピペロンは、共にブチロフェノン誘導体の一種です。ハロペリドール同様、強い D<sub>2</sub> 受容体遮断作用を持ちます。代替薬としては不適切と考えられます。

アリピプラゾールは、ドパミンD<sub>2</sub> 受容体及びセロトニン5-HT<sub>1A</sub> 受容体に対して **部分刺激薬** として作用する、統合失調症治療薬です。代替薬として適切と考えられます。

リスペリドンは、SDA ( **serotonin-dopamine antagonist** ) です。SDA は、D<sub>2</sub> 及び 5-HT<sub>2A</sub> 受容体遮断作用を持つ薬です。定型と呼ばれるハロペリドール等と比較して、錐体外路症状の副作用が少なくなっていることが知られており、代替薬として適切と考えられます。

クロザピン (クロザリル) は、治療抵抗性統合失調症の治療薬です。 ( ) 副作用回避のための代替薬としては不適切と考えられます。

以上より

問 252 の正解は 3,4 です。

問 253 の正解は 1,3 です。

参考)